

# 高養研

発行 北海道高等学校養護教諭研究会  
事務局 北海道札幌北高等学校  
〒001-0025 札幌市北区北25条西11丁目  
TEL 011-736-3191 FAX 011-736-3193  
<http://koyoken.sakura.ed.jp/myks/hyousi.html>

## 北海道高等学校養護教諭研究会

# 第36回 研究協議会の様子

北海道高等学校養護教諭研究会第36回研究協議会は、当初、令和3年7月27日(火)、28日(水)に札幌市教育文化会館で行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点より、Zoomによるオンラインでの開催とさせていただきます。

今年は、講師に澤 聡一氏(北翔大学 教育文化学部心理カウンセリング学科 准教授 公認心理師・臨床心理士)をお迎えし、研究発表は山崎 真優佳氏(北海道下川商業高等学校養護教諭)にリモートで発表していただきました。高養研ホームページに研究協議会の詳細がありますので、是非そちらも併せてご覧ください。

講演では、「コロナ禍を生きる高校生のこころの健康—これからの関わりのために—」と題して、思春期の若者のこころの健康に及ぼす影響について、詳細なデータを基に現状をわかりやすく、丁寧にお話しくださり、今後の保健室での関わり方のヒントをたくさん教えていただきました。また、コロナ禍での健康課題について、改めて学びを深めることができました。



研究発表は、「スキルラダーを活用した実践の振り返り～ステップアップを目指して～」と題して、養護教諭のスキルを4段階にまとめたスキルラダー表を用いて、自身の到達状況を客観的に評価・分析し、実践した取り組みを発表していただきました。日常の職務を振り返ることで、養護教諭自身のスキルアップにつながる素晴らしい実践で、大変参考になる研究発表でした。

また、北海道教育庁学校教育局健康・体育課 健康・体育指導係主査 篠原 弥智氏による情報提供では、最新の情報をわかりやすくまとめて、ご説明くださいました。新型コロナウイルス感染症への対応、道内の学校における感染状況や情報収集のチェックポイントについて等、日常の職務に大変参考になる内容ばかりでした。

オンラインによる短い時間での研修会となりましたが、多くの会員の皆さまにご参加いただきました。この場をお借りしまして、感謝を申し上げます。

## 北海道高等学校教育研究大会

## 第36回養護部会のお知らせ

【主 題】 現代的な健康課題の解決と学校保健活動の推進をめざして

【日 時】 令和4年1月13日(木) 9:20～

【開催方法】 新型コロナウイルス感染症対策のため、Zoomを活用したオンライン開催とします。

【参加申込】 各学校の担当者へ申込みをしてください。

当日の参加方法については高教研事務局から送付される「参加証」をご確認ください。

【日 程】	9:20	9:40	9:50	11:10	12:00	13:10	13:30	15:15	15:30
	午前の部 入室開始	開会式	研究発表	情報提供	休憩	午後の部 入室開始	講 演	閉会式	

【内 容】

講

演

演 題 「学校保健の課題とその対応」

～コロナ禍における養護教諭の役割について～

講 師 文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課

健康教育調査官 松崎 美枝 氏

〔講演要旨〕

新型コロナウイルス感染症の対応については、長期的な対応が求められる中、今もなお警戒が必要な状況にあります。各学校においては、養護教諭の専門性を生かし、教職員一丸となって感染症予防対策を行っていただいているところですが、今回は、新型コロナウイルス感染症についての最新の情報等を確認し、学校における感染症対策の在り方や養護教諭の役割等について考えていきます。

また、令和元年度に文部科学省補助事業で（公財）日本学校保健会が「養護教諭の職務等に関する調査」を行い、その結果から明らかになった課題に対応するために「学校保健の課題とその対応」の改訂版（令和3年3月）を作成しました。その内容の中から、「養護教諭の職務」を改めて考えるとともに、これからの学校保健に求められる養護教諭の役割等を確認していただく機会にしたいと考えています。

〔略 歴〕

福岡県公立学校 養護教諭

福岡県体育研究所 指導主事

福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課 指導主事



**研究発表****テーマ 「小規模校における養護教諭の役割  
～養護教諭のコーディネーター的役割を考える～」**

北海道羽幌高等学校 養護教諭 今川 綾花氏

**〔研究発表要旨〕**

新採用で勤務してから今年度で6年目となりました。小規模校の養護教諭として、生徒の実態や健康課題、地域の特性を踏まえた上で校内や地域と連携し、日々奮闘しながら保健室経営を行っています。校内体制の整備や外部機関（スクールカウンセラー等）との連携について6年間を振り返り、その実践を発表します。発表では未熟な部分が多々あると思いますが、参加される先生方からの貴重なご助言・ご示唆をいただきたいと思ひます。

**助言・情報提供****「事例からみる学校保健の課題」**

北海道教育庁学校教育局健康・体育課

健康・体育指導係 主査 篠原 弥智氏

**〔留意事項〕**

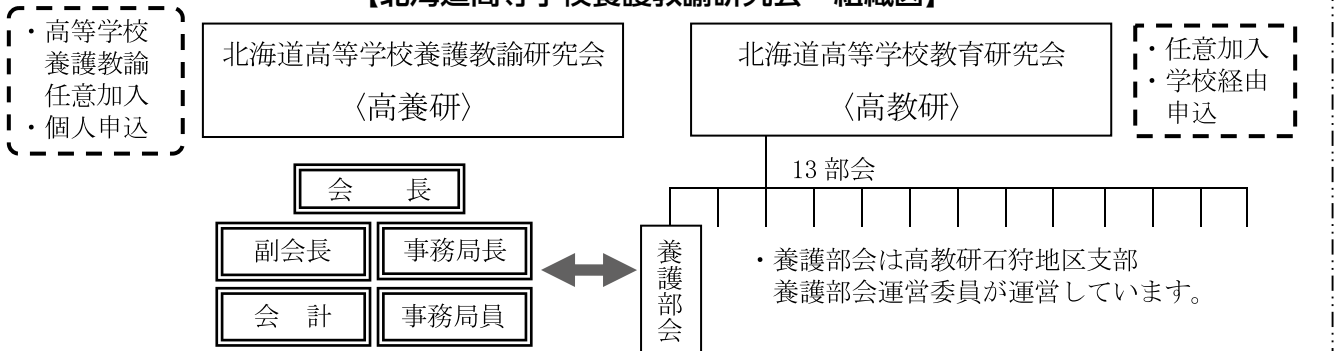
- (1) 当日の参加はできませんので、事前の申込みをお願いします。
- (2) オンデマンド配信を予定しています。

**研修会のご案内****全国養護教諭連絡協議会第27回研究協議会**

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、WEBでの開催となります。

**配信日程：令和4年3月10日～令和4年4月17日****内 容：特別講演・フォーラム（予定）****高養研および高教研養護部会の加入について**

本研究会（高養研）と高教研養護部会は別組織であるため、研究会に加入する場合は各々所定の手続きが必要となります。

**【北海道高等学校養護教諭研究会 組織図】**

# 会員だより 北海道高等学校養護教諭研究会に参加して

3名の会員の方に意見・感想をいただきました。  
お忙しい中お引き受けくださり、心より感謝申し上げます。



橋本ひなの

北海道新十津川農業高等学校

今年の3月に大学を卒業し、4月から新採用として本校に着任いたしました。全校生徒76名と小規模な学校ではありますが、新たな環境で慌ただしい毎日を送っています。

今回の研究協議会で澤先生がご講演くださったコロナ禍を生きる高校生のこころの健康の中で、インターネットやゲームが自粛生活の気晴らしの機能を果たしたというお話から、これらが子どもの心の救いになっている場合もあることを学びました。本校でも、スマートフォンのアプリが生徒間で共通の話題となり仲を深めていく様子が見られました。インターネットやゲームを一概に否定するのではなく、本人にとってどう役立っているのかを聞き、効果的に利用し続けるためのやり方を一緒に考えていけるようになりたいです。

後期はスポーツ大会や宿泊研修、見学旅行など様々な学校行事がありますが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり予定どおり実施されるかわからず不安です。我慢を強いられる日々ではありますが、生徒の高校生活での楽しい思い出が一つでも増えてほしいと思っています。そのためにも他の教員と協力しながら感染症予防を行い、より安全に学校行事を実施できるよう尽力してまいります。

養護教諭になり、3年目になります。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、改めて、学校における養護教諭の役割の大きさや責任の重大さを日々感じています。生徒の健康を保持増進するために、自分にできる最大限はなんだろう、と自問自答する中で、本研究協議会に参加させていただき、知識のアップデートを図ることができました。

澤先生のご講演の中の「生徒の発信力を高めると同時に、大人の受信力を高める」という言葉が印象的でした。今までは、生徒の機微な変化も見逃さず、アンテナを高く張っていないと、自分の「受信力」のことしか考えていなかったと振り返ります。今後は、生徒の抱える思いを言葉にさせ、考えを行動に移せるような関わりを心掛けていきたいと思いました。そうすることで、生徒の自己理解や自己管理能力の育成にも繋がるのだと思います。

コロナ禍になり、人との繋がり方や関わり方が大きく変化している今だからこそ、大切にしたいことです。

最後に、感染拡大が続いている大変な状況の中、このような研究協議会を開催していただき、ありがとうございました。どのような状況下においても、学び続ける姿勢を大切に、生徒との関わりに反映していきたいと思っています。

船田沙紀

北海道利尻高等学校

西口友菜

北海道雄武高等学校

今回は、このような貴重な機会をいただき、ありがとうございました。初めて参加させていただいた研究協議会では、多くのことを学ぶことができました。

私は、4月に採用となった養護教諭1年目です。養護教諭は学校に1人しかいないことが多いため、学校保健について確実な知識・技能を身につけることが大切だと日々感じています。そのため、常に学び続けることが求められると思いますが、日々の保健室経営や分掌の仕事をこなすのに精一杯になってしまい、ガイドラインを読んだり、養護教諭の職務や法的根拠について考えたりする勉強の時間をまとまるとすることができないという現状でした。丁寧かつ効率の良い仕事の進め方を日々模索しながら、学びを深めるということが現在の課題となっています。そのため、このような研究会の機会をいただき、養護教諭の職務、特に高等学校に特化したお話をしていただける機会は大変貴重で、より多くのことを吸収しようという思いで臨みました。

今後もこのような研究会に参加させていただき、養護教諭としての見聞を深めていきたいと考えています。ありがとうございました。